

自民党・島尻安伊子現職大臣に10万6400票の大差で

伊波洋一さん圧勝！

元宜野湾市長・

沖縄意見広告運動全国世話人

オール沖縄候補



安倍政権の辺野古新基地に「ノー！」



翁長県知事のおいさつ



(万歳三唱にあたって) 開票と同時に伊波洋一さんが当選いたしましたこと、本当に多くの県民の皆さまがたに支えていただき、沖縄の将来を見据える当選をさせていただきましたことに心から感謝を申し上げます。

これまで伊波洋一さんが宜野湾市長や県会議員をやりながら、この参議院選挙を通じて大きな政治家として人柄もふくめて多くの県民にご理解をいただきました。

この2～3年来、保革を乗り越えて、「イデオロギーよりはアイデンティティー」という県民の声をひとつにして、基地問題を含め21世紀の子や孫のためにがんばっていかうという意志を伊波洋一さんがしっかりと背負って県民に訴え、県民とところがひとつになったことが、たいへん大きな勝因だと理解しております。一昨年来の怒濤のような選挙から始まり、今年の県会議員選挙、それらの総括としての参議院選挙で沖縄の民意が示されました。辺野古新基地は絶対に作らせない。アジアのダイナミズムを取り入れて誇りある豊かさを築いていく。また子どもの貧困問題を含め県民の暮らしをしっかりと守っていく。こういったものを伊波洋一さんが沖縄の代表として国会に行き、地方自治、民主主義を求めてがんばっていきけると思っております。

伊波さんは日本でいちばん早く当確が出たと思います。沖縄のみなさんの良識の勝利です。(7月10日)

伊波さん 7月13日 沖縄県庁にて 当選証書授与

7月13日、沖縄県庁にて伊波洋一さんへの「当選証書付与式」が行われました。選挙監視委員会の当山尚幸委員長から証書を授与され、「当選した責任の大きさを実感している。今参院選の大きな争点だった名護市辺野古の新基地建設の断念を求め、沖縄の課題解決にしっかりと取り組む」と決意を述べました。伊波さんとともにこれからは参議院でも運動を拡げてまいります。



伊波さん 7月12日 高江、辺野古へ 当選のあいさつと激励

7月11日、参議院選挙が終わり、伊波洋一さんの当選が決まるやいなや、政府はまるでこれに対する報復のように、人口わずか150人の東村高江に500人の機動隊を投入してヘリパッド建設再開を強行。22日には辺野古新基地を巡り沖縄県を相手取って裁判まで起こした。12日、当選したばかりの伊波洋一さんは高江にはせ参じ、要旨以下のようにあいさつを行なった。

●世界の米軍基地は縮小されている

「基地建設推進の現職を10万6400票の大差で打ち破って当選しました。今回の選挙は安倍政権の一員である相手候補と県民とのたたかいという位置付けでたたかいました。『ジャングル訓練センターはもともとパナマにありましたが、パナマ運河返還にあたってここに移ってきました。ここが唯一のジャングル戦闘訓練場です。辺野古新基地建設断念と共に、北部訓練場返還もとても大事なことです。』世界的には米軍基地はどんどん縮小されております。日本だけは対米従属だからこのような状況にあります。私たちはこのような事を許さないという県民の意志を示していきましょう。私も国会で追及します。基地を無くす取り組みをとものにがんばってまいります。」

●辺野古の座り込みで大歓迎

このあと辺野古にかけつけ、座りこむ80人の住民らに歓迎を受け、「やはり私たちの民意はしっかりしたものになっていると確信しております。この民意を持って基地建設を断念に追い込んで参りますので、よろしくお願ひします。『今後、日本政府をはじめアメリカの議会にも働きかけてい』と意気込みをかけた、座りこむ住民からカチャーシーの歓迎を受けた。

参院選沖縄選挙区は伊波洋一氏が自民党現職の島尻安伊子氏に大差をつけ、翁長雄志氏が当選した2014年11月の知事選に続き、保革を超えた「オール沖縄」勢力が全県選挙を制した。全国的に自民党勝利の風が吹く中、沖縄では伊波氏が名護市辺野古の新基地建設反対を訴えて現職閣僚を退ける対照的な結果となり、基地問題での民意をあらためて政府・与党に突き付けた。一方、自民にとっては衆参両院で県内小選挙区、選挙区的全議席を失う痛恨の結果となった。

伊波氏は選挙戦を通じ、一貫して米軍普天間飛行場の移設に伴う辺野古新基地建設の是非を争点に位置付けた。反対姿勢を前面に打ち出している大勝は、県政与党が過半数を維持した6月の県議選に続き、翁長県政を後押しするものともなる。伊波氏の当選で、衆院の県内4小選挙区と参院の沖縄選挙区の計6議席全てを辺野古移設に反対する「オール沖縄」を掲げる議員が占めた。6人に増えたオール沖縄の国会議員が、今後普天間問題をはじめ沖縄のさまざまな課題解決に向け国政で存在感を発揮できるかが問われる。

一方、自民県連は2001年の参院選以来維持してきた参院での議席を失い、国会議員は衆院選で比例復活した4人のみとなった。13年11月に普天間問題で「辺野古移設を含むあらゆる選択肢を追求する」との方針に転換。その後の知事選、衆院選、今参院選とことごとく敗れ、移設容認に転じたことによる逆風が続いている。特に今回は、4月に発生した米軍属女性暴行殺人事件による反基地感情の高まりも大きく影響した。

辺野古移設反対の世論が明確に示されたことは、「唯一の解決策」として移設推進の方針を崩さない政権への再度の異議申し立てでもある。全県選挙で強固な民意が示されたことで、移設を正当化する根拠は一層薄弱なものとなった。(当山幸都)



当選 伊波洋一(オール沖縄) 356,355票
島尻安伊子(自民党) 249,955票
金城竜郎(幸福実現党) 9,937票

第24回 参議院選挙 沖縄選挙区

衆参6議席全て辺野古反対 安倍政権に異議再び (琉球新報7月11日より)

●全国津々浦々の1万人の思いで辺野古工事中断・断念へ！

第七期沖縄意見広告運動は、安倍政権とオール沖縄・翁長県政が「埋め立て承認」取消し問題で抜き差しならぬ状態のなかで取り組んでまいりました。

沖縄の圧倒的民意を背景にした翁長知事は安倍政権と真っ向対峙し、正義と民主主義の名において沖縄の不条理を問うてきました。それに対して安倍・菅は何も答えることができません。

知事のこの堂々たる姿勢は多くの民衆に感動を与え、今こそ、声をあげる時と沖縄意見広告運動に北海道、長野、高知をはじめ各地から「不屈に闘えば勝てるという自信を頂いた」と、賛同の声が多く寄せられました。

賛同者の中には年金から多くの賛同金を送られた方、「現地に行きたいが、持病がある。自分の意思を形に」と賛同な

された方や、また、「一口に満たないでごめんなさい」と、謙遜な年配者からの力強いメッセージ付きでの賛同金振込みがありました。6月5日の掲載日を待たずに黄泉に旅出たれた賛同者もおいででした。

思いは一つ！
沖縄を孤立させない！ シュワブ・ゲート前座り込みのオジー・オーバーや海上で果敢に闘うカヌー隊と連帯したい！

沖縄意見広告運動は「基地のない平和な沖縄、そして日本」を願い、沖縄に思いを寄せる方々の声を、新聞意見広告を媒体として「戦争準備の基地はいらない！」「普天間基地即時閉鎖！」の闘いを北から南まで日本列島を縦断する新聞包囲網で安倍政権にたたきつけてきました。

●「心をひとつにしてこの壁を突き崩そう」(6月19日県民大会での翁長知事のことば)

広告掲載日の6月5日の沖縄県議選で翁長と党側が勝利をおさめ、過日の参院選では意見広告全国世話人・オール沖縄統一候補伊波洋一さんが圧倒的大差で勝利しました。

今、沖縄意見広告は新聞社、読者から関心と注目をひいています。その一例に読者から当該地方紙に広告掲載をして欲しいとか、関東の地方2紙からの掲載依頼や読売、産経、日刊ゲンダイ等からの依頼のセールスも有りました。ビジネスの域ではありませんが、もはや私たちの一人ひとりの思いをつなぐこの運動は基地建設容認の立場の産経、読売とて注目し始めている証であります。

沖縄意見広告運動第八期は第七期が作り上げた地平を発展させ、賛同の裾野を野火の如く広げ、一万人越えを達成させ

ましょう。
参院選は与党が圧勝しましたが沖縄では真逆の結果となりました。安倍政権は凶暴化し、がむしゃらに工事を押し進めてくると考えられます。現地は陸も海も万全の態勢です。

現地に行きたい、だが時間、体力、家庭、経済的な諸事情で行けないその思いを第八期沖縄意見広告運動に集約し、工事断念の一大包囲網を構築しましょう！

※一万人越えを果たすために、事務局体制の強化と作業ボランティアの参加が必要です、発送はじめ煩雑な作業などがあります。時間に余裕のある方は是非ともご協力をお願い致します。(沖縄意見広告事務局)

暴力で排除し、東村高江・国頭村安波の垂直離着陸機オスプレイ用ヘリパッド(オスプレイパッド)の建設に再着手しました。辺野古新基地の工事が休止している間、伊波氏当選という民意を押しつぶそうという強い悪意が感じられます。翁長知事は「他の都道府県ではこのようなことをするのか」と強く批判しています。

海兵隊北部訓練場メインゲートから、大型車両による2階建てプレハブ資材や大型発電機、簡易トイレなどの搬入が行われています。高江と安波の境界にあるN1地区の座り込みテントへも機動隊が押し寄せ、倒されてけがをして救急車で搬送される人も出てしまいました。政府は、機動隊を全国から500人規模で動員し工事を強行するとしています。

これに対して、「ヘリパッドいらない住民の会」や「高江ヘリパッド建設に反対する現地行動連絡会」などの住民や支援者は、非暴力の抗議・阻止行動を続けており「ヘリパッド工事を止めさせ、住民の暮らしとやんばるの森を守るため、多くの人々が現地にきて座り込み抗議行動に参加してほしい」と訴えています。(花輪伸一 7月17日)



7月10日、参議院選沖縄選挙区では、オール沖縄の候補者、伊波洋一さんが圧勝しました。「これ以上沖縄に新たな米軍基地はいらない、基地があるかぎり事件・事故が絶えない、海兵隊には出て行ってほしい」という民意が、対立候補の現職大臣に10万6千400票もの大差をつけて当選させたのです。

しかし、その翌日早朝6時から、沖縄防衛局は機動隊を導入して、非暴力で抗議・阻止しようとする住民や支援者を

沖縄・意見広告運動二ニュース

振替口座/加入者名:意見広告 2016.7.25 (MON)
口座番号:00920-3-281870 東京:03(6382)6537 FAX:03(6382)6538 大阪:06(6328)5677 FAX:06(6328)5777
■東京連絡先 〒164-0001 東京都中野区中野2-23-1 ニューグリーンビル301号 協同センター東京 気付
■関西連絡先 〒533-0032 大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ内



怒りは限界を超えた！

元海兵隊員による、残虐な蛮行を糾弾！ 被害者を追悼し、海兵隊の撤退を求める県民大会決議

元海兵隊員の凶悪な犯罪により、20歳の未来ある女性のいのちが奪われた。これは米軍基地があるが故の事件であり、断じて許されるものではない。繰り返される米軍人・軍属による事件や事故に対し、県民の怒りと悲しみは限界を超えた。

私たちは遺族とともに、被害者を追悼し、2度と繰り返させないために、この県民大会に結集した。

日米両政府は、事件・事故が起きるたびに、「綱紀粛正」「再発防止」を徹底すると釈明してきたが実行されたためしはない。このような犯罪などを防止するには、もはや「基地をなくすべきだ」との県民の怒りの声はおさまらない。

戦後71年にわたって米軍が存在している結果、復帰後だけでも、米軍の犯罪事件が5910件発生し、そのうち凶悪事件は575件にのぼる異常事態である。

県民の人権といのちを守るためには、米軍基地の大幅な整理、縮小、なかでも海兵隊の撤退は急務である。

私たちは、今県民大会において、以下決議し、日米両政府に対し、強く要求する。

- 記
1. 日米両政府は、遺族及び県民に対して改めて謝罪し完全な補償を行うこと。
 2. 在沖米海兵隊の撤退及び米軍基地の大幅な整理・縮小、県内移設によらない普天間飛行場の閉鎖・撤去を行うこと。
 3. 日米地位協定の抜本的改定を行うこと。

宛先 内閣総理大臣/外務大臣/防衛大臣/
沖縄及び北方対策担当大臣/米大統領/駐日米国大使

2016年6月19日
元米海兵隊員による、残虐な蛮行を糾弾！
被害者を追悼し、海兵隊の撤退を求める県民大会

二ニュース目次
1 ページ 怒りは限界を超えた！
6・19県民大会に65000名
2〜3 ページ 参院選伊波洋一さん大勝！
4 ページ 第八期へ向けてお願い／高江で工事強行

6月19日、沖縄で、「元海兵隊員による残虐な蛮行糾弾！被害者を追悼し、沖縄から海兵隊の撤退を求める県民大会」が開かれ、6万5千人が集まった。県民大会は、「怒りと悲しみは限界を超えている」とし、「県内移設でなく普天間基地の閉鎖撤去」「在沖海兵隊の撤退を求める決議を日米両政府に突きつけた。同日、県民大会に連帯し、1万人の国会包囲行動をはじめ41都道府県69カ所で開催された。日本全体が沖縄の怒りにわが事として向き合い行動することが求められている。